第39回 協会賞決まる

最終選考会は二月十一日、千葉市文化センターで開催。選考委員は能村研三、増成栗人、秋尾敏、北川昭久、村上喜代子、石井紀美子、髙橋健文、加藤峰子、染谷卓の九名。選考基準を確認後、予備審査の結果を参考に活発な議論が交わされ、別表の通り決定した。応募作品は次の三十篇。（到着順・敬称略）

「旅衣」竹下喜代子、「夜風切る」岩本功志、「玉解く芭蕉」大久保文夫、「雁の頃」滝口美智子、「第二育児」内山花葉、「溶岩の島」矢野隆男、「風まかせ」相川健、「厨にて」清水陽子、「房の山」平山武彦、「水ヨーヨー」斎藤ときは、「緑の眼」西嶋久美子、「冬に入る」菊池喜己、「風の川」岡澤田鶴、「踊の輪」東昇、「風の又三郎」祐森司、「潮干潟」葛西茂美、「風光る」有田川あき、「湯たんぽ」飯田協子、鬼やんま」尾川美保子、「黙読」伊藤素広、「復刻版」徳吉洋二郎、「細き西日」清瀬朱磨、「ちらちほら」伊藤早苗、「そして野田」江部博、「句会デビュー」下田寿美子、「朝光ゲ」高橋敏夫、「ひと日」杉村みゆき、「物語り」五十嵐紀子、「日章旗」古谷誠司、「白たんぽぽ」秋元政子。

一次審査の結果十点以上を得た「黙読」「雁の頃」「第二育児」「細き西日」の四作品が受賞対象候補となった。

各候補作品について活発に討議されたが、九名の審査員中、四名の審査員が一位に推し、二名の審査員が二位に推した「黙読」が協会賞となった。協会賞準賞は二名の審査員が一位に推し、二名の審査員が二位に推した「雁の頃」となった。

「黙読」は詩情があり、独特の世界観が漂い、日常の細やかな機微をとらえている。との選評であった。

「雁の頃」は全景の良く見えるまとまった作品群である。表現が巧みであるとの選評であった。

佳作作品は同点であるが一位を審査員から獲得している「第二育児」が佳作一位、「細き西日」は佳作二位となった。

「第二育児」は一貫した介護と看取りの作品群である。季語の選び方もうまい。一方、題名に違和感があるとの選評であった。

「細き西日」は職場を題材にした新しい句であり、臨場感がある。一方、インカム、プレゼン、コンプライアンスは俳句の言葉としてまだ馴染まないのではとの選評もあった。

協会賞応募にあたり、珠玉の作品をお寄せ下さった皆様にお礼を申しあげたい。来期も奮って力作を応　募して頂きたい。

（担当理事　染谷卓　清水佑実子　坂井博）

＊協会賞選考基準

①委員の半数以上が五位以内に推薦した作品であること。
②委員の一人以上が一位に推した作品であること。
③右の①②の条件を満たしていることを基準とするが、場合によっては①②のいずれかに該当していれば審議の対象とする。

真木

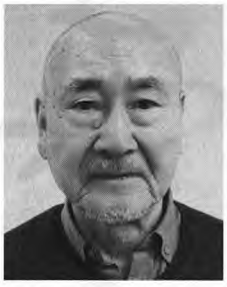
第　213　号

〒260-0852
千葉市中央区青葉町
1274-14
加藤峰子方
千葉県俳句作家協会
事　務　局
TEL 043-225-7115

〒276-0042
八千代市ゆりのき台3-4-1101
前北かおる方
「真木」編集部
TEL 090-4363-3501

目　次

第三十九回協会賞決まる……1
協会賞「黙読」伊藤素広……2
準賞「雁の頃」滝口美智子、佳作1「第二育児」内山花葉、佳作2「細き西日」清瀬朱磨……3
新春交流会・第十回千葉県俳句大賞贈賞式……4
春季吟行会……6
千葉県俳壇ニュース、結社賞……8
新入会員一句、基金御礼、受贈誌より、事務局日誌……9



協　会　賞

伊　藤　素　広（柏市）

「黙読」

色鳥や伸びしろといふ佳きことば
露の貨車ずしんと夜へ動き出す
草にある薬のにほひ震災忌
黄落す風の高さのポプラより
桐の実が鳴る山彦に応へては
朴の葉に盛る新蕎麦のうすみどり
崩れゐてなほ鹿垣の体を成す
体力のみなぎつてゐる小菊かな
駅に菊動物園のまへに菊
ひよどりの一樹ありけり七五三
黙読のやがて音読小六月
降り出しの雨粒固し冬ざくら
風食うて枯螳螂の眼となりぬ
鳴きくらべして冬麗の鳶ふたつ
冬ざれや風の桐の木日のいちやう
思羽の藍増し鴛鴦の争へり
沈みゆく水の重さの竹瓮かな
鶏頭の形のままに枯れゐたり
短日や働きづめの台秤
鶴折る子折れぬ子雪の降り出しぬ

第39回 協会賞入賞作品審査表

（上段が順位・下段が得点）

表題	成績	審査員順位									得点	氏名	住所	所属結社
黙読	協会賞		1	2			1	2	1	1	28	伊藤　素広	柏市	鶴・群青
			5	4			5	4	5	5				
雁の頃	準賞	1	4	1	2			4		2	22	滝口美智子	鎌ヶ谷市	河俳句会
		5	2	5	4			2		4				
第二育児	佳作１			6	4			1		3	10	内山　花葉	つくば市	沖
					2			5		3				
細き西日	佳作２	3	3				3			5	10	清瀬　朱磨	千葉市	鳴
		3	3				3			1				
審査員（五十音順）		秋尾　敏	石井紀美子	加藤　峰子	北川　昭久	染谷　卓	髙橋　健文	能村　研三	増成　栗人	村上喜代子	【得点】　１位＝５点 ２位＝４点 ３位＝３点 ４位＝２点 ５位＝１点			

協会賞　準賞

雁の頃　　滝口美智子

火をつかふときめき冬瓜透きとほる
梨の皮切らずに一個剥くあそび
藤の実の弾けて飛びし白昼夢
鳩笛や身ほとりに宵かきよせて
億年人を待ちたる姿かまどうま
あけすけに夕焼けて秋深めけり
４Ｂの鉛筆秋の入彼岸
葦の花とは音の波生むところ
西口から東門まで草もみぢ
稚児の列たわみつつ来る菊日和
この寺の風より白き桔梗かな
爽籟や極彩色の地獄絵図
蓄財の才乏しくて菊供養
注連にする藁干しあげて鬼城の忌
十三夜人魚が人となる痛み
かまきりの卵莢に和紙ほどの翳
あまた子を攫ひて芒原となる
蒲の穂の日にほどけたる白さかな
穴のみの目の渺々と星月夜
窓枠に空囚はるる雁の頃

協会賞　佳作１

第二育児　　内山　花葉

苺二粒介護は第二育児とも
春あけぼの寝顔はいつか母に似て
ミサイルも地震も知らずに大朝寝
春の夢預金通帳はと寝言
ぴつちゆぴちゆ大丈夫よと囀れり
爛漫の春白湯ばかり飲みたがり
ミネストローネ一匙さくら満開に
芝青む赤子はじめて立つやうに
身を抱けばひゆつと肺鳴る養花天
一喜一憂して胸底に春愁
病む父へ長子草餅提げてくる
あたたかや話聞かむと顔寄せて
髪洗ひ足湯して良き春日和
戸に出よと連翹の黄が誘へり
エプロンはヨットの刺繍初蝶来
今日が一番若い日共に蓬餅
空腹は駄々子になる春疾風
やはらかく痩身抱けば朧めく
春の宵このあたたかき掌が好きで
あなただけ勝手に召さるな緑雨

協会賞　佳作２

細き西日　　清瀬　朱磨

初花を総務課長へ報告す
複写機のまだ吐いてゐる遅日かな
インカムの急ぐ廊下や夏隣
雲の峰第三会議室の黙
日焼して故郷の銘菓配りをり
長机寄せてビールと乾き物
ブラインドの細き西日や内示受く
吊革へ預くる重さ遠花火
子会社を畳む算段秋あふぎ
名月とネオンの窓辺ルームキー
プレゼンの長し九月の雲速し
お手許の十六ページ鳥渡る
事務室へ零さぬやうに夜食かな
深更の通用口や虫集く
コンプライアンス研修神の留守
燗酒のすつかり冷めて仕舞ひけり
ネクタイをシャツに差込み煤払
放たれし扉をノックして御慶
春立つやエレベーターへ深き礼
新社員の履歴書熱き茶を啜る

新春交流会・第十回千葉県俳句大賞贈賞式

【贈賞式】

第八回千葉県俳句大賞贈賞式は、令和七年二月十一日午後二時から開催された。増成副会長の開会の言葉で幕は開けられた。

司会は、石井理事長。能村会長の挨拶の後、村上担当部長から選考過程の説明があった。今回は、大賞が広渡敬雄氏の『風紋』、準賞は峰崎成規氏の『遊戯の遠景』、奨励賞は中山和子氏の『勾玉』と、それぞれ結果が発表された。

三氏ともに贈賞式に出席され、能村会長、秋尾副会長、北川副会長の祝辞に続き、出版元より角川『俳句』編集部の石川様、東京四季出版の西井様から、句集を編むまでのエピソードなどをご紹介いただいた。

挨拶に立つ能村会長

受賞者を代表して、広渡氏からご挨拶をいただき、千葉県は俳句人口が多く千葉県俳句大賞の大賞受賞が有意義であることや、東日本大震災を詠んだ『風紋』の句の背景などをお話しいただいた。

俳人協会、現代俳句協会、日本伝統俳句協会の三協会の俳人たちが競い、称え合う千葉県俳句大賞。これからもぜひ、挑戦していただきたい。

（稗田寿明）

千葉県俳句大賞受賞者を囲んで

【新春交流俳句会】

今年度の新春交流会俳句会には投句者数延べ一四三名二八六句集まった。近年投句数が減少傾向にあり、その打開策の一つとして投句用紙に何組でも可と明記したところ会員皆様から複数の投句者が増加し前述結果となった。

俳句会は千葉市文化センターのセミナー室にて十四時から髙橋副理事長の司会により始まり、予め協会役員理事三十六名の選句された句が加藤事務局長、祐理事によって披講された。理事十名の点盛係により採点され、一位から十六位までと協会役員による特選賞が決定した。（結果別掲）

また採点集計の間、会長、副会長による講評が行われ好評を博した。

続いて髙橋副理事長の成績発表があり一位から十六位までの入賞者と特選賞九名の賞品授与が行われた。欠席者には後日郵送することにした。

十六時三十分に増成副会長の閉会の挨拶で俳句会は幕を閉じた。

（平岡育也）

【祝賀会】

今年は会場がホテルから千葉市文化センターに代わったことにより祝賀会の会場を市中に求め千葉駅近くの中国料理『珍宴』に決定した。

宴会は午後五時半から受賞者の広渡敬雄様、中山和子様、来賓の角川編集部石川一朗様、俳句四季代表取締役西井洋子様を含め三四名の参加にて始まった。

司会は稗田理事が務め、受賞者の挨拶、来賓の挨拶があり、熟年の参加者には量的には多いほどだが、美味な中国料理を堪能し楽しい二時間を満喫した。（平岡育也）

会場風景

俳句会作品集

【特選句】

能村研三会長特選
火が透き通る冬のビオラのビブラート　野口　京子

増成栗人副会長特選
イマジンの流るる茶房室の花　松尾　涼

秋尾敏副会長特選
黒を着てポインセチアを買うてをり　茶谷　静子

北川昭久副会長特選
初夢の兄は宇宙を語りをり　平野みち代

石井紀美子理事長特選
梟に夢殿までの略図書く　清水　伶

髙橋健文副理事長特選
梟に夢殿までの略図書く　清水　伶

加藤峰子事務局長特選
三日はや潮風に鳴る大漁旗　鎌田　光恵

川合憲子顧問特選
浮寝鳥水の夕ぐれ来てをりぬ　北川　昭久

三枝かずを顧問特選
亡き友の席一つ空け日向ぼこ　石山　幸月

【入賞者と代表作品】

（二句合計点数、○数字は順位、一句のみ記す）

①地にきざむ影一つづつ冬木立　13点　中村　世都

②着ぶくれて手足短く使ひけり　12点　藤岡　貞夫

③鉄鍋になじむ木蓋や雪催　9点　広海あぐり

④空位

⑤無心とは降りては溶くる春の雪　7点　相川　健

⑥梟に夢殿までの略図書く　6点　清水　伶

⑦葉牡丹に宇宙の渦のやうなもの　6点　湯浅　康右

⑧わたくしの霧になるまで霧をいく　6点　細根　栞

⑨喃語には喃語で応ふ日向ぼこ　5点　石山　幸月

⑩冬瓜のころころ山の日が暮るる　5点　増成　栗人

⑪一瞬の黙ラグビーのホイッスル　5点　豊島　京子

⑫歩くとは前を向くこと冬木の芽　5点　川合　憲子

⑬長き夜の星をつないで子に語る　5点　石井紀美子

⑭暁闇や雪跳ね返す竹の音　5点　大久保文夫

⑮病む妻に譲る窓辺の冬日向　5点　三枝かずを

⑯浮寝鳥水の夕ぐれ来てをりぬ　4点　北川　昭久

令和七年度 春季吟行会

千葉公園

吟行記

近年吟行会は秋に行われていたが、地球温暖化で九月は残暑が厳しいこともあって、今回は春に行うことにしたのだが、今年の春は、初夏のような日のすぐ後に厳寒日が来るというように寒暖差が激しい日々が続いた。吟行日の三月二十日（木）も、前日は雪、都内でも二センチの積雪とのことだったが、一日で天気はガラッと変わり、穏やかな吟行日和となった。

千葉公園は千葉駅から徒歩十分とは思えない自然に溢れており、六月頃には大賀博士が縄文時代の蓮を復元した「大賀蓮」が咲くことで有名であり、また旧陸軍関連の史跡もある公園である。当日は春分の日でもあり、散策する人で賑わっており、綿打池はボートを漕ぐ人も多かった。桜はまだ開花していなかったが、池の周りには河津桜が数本咲き、柔らかな春風の中をモノレールが走っていた。

句会場は千葉市民会館の特別会議室二、十三時に飯田晴理事の司会にて開会。所用で欠席の能村研三会長に代わって、増成栗人副会長から開会の辞、開会挨拶があり、その後、投句者七十三名による一四六句から、参加者全員が選句に取り組んだ。

十四時十分より、祐森司理事、前北かおる理事、加藤峰子事務局長による披講、点盛がなされた。休憩の後、六年度当協会の俳句大賞を受賞され、俳句関連のユニークな著書も出されている広渡敬雄氏によって「季語になった動物、ならなかった動物」のテーマで、実に多くの動物を取り上げた講演が行われた。

その後再開された句会では、増成栗人、秋尾敏、北川昭久副会長、石井紀美子理事長、加藤峰子事務局長から各々特選句を中心に講評がなされた。そして石井理事長からの成績発表があり、一位から十五位までの句作者に北川副会長から賞品が授与され、特選句には再度拍手が送られた。）

講演する広渡敬雄氏

十六時十五分、秋尾副会長の閉会の辞をもって、令和七年の春季吟行会は滞りなくお開きとなった。

ご参加いただいた皆様に感謝申し上げると共に、次回も是非ご参集いただければ幸いである。参加されたことのない方も、俳人協会／現代俳句協会／伝統俳句協会の会員という異なった句風を持つ方達が、吟行地で同じものを見てどのような句を作るのか、どのような句を選ぶのかを知るよい機会になるのではないか。より多くの方にご参加いただき、千葉県俳句作家協会の年一回の吟行会をより有意義なものにしていきたいと思う。

（山岸明子記）

増成副会長

春季吟行会作品集

増成栗人副会長特選
春昼の舟縁の鳥身じろがず　岡本　秀子

秋尾敏副会長特選
押せばピュッと出る公園の春の水　島田　喜郎

北川昭久副会長特選
風光る櫂を休ます二人かな　岡井マスミ

石井紀美子理事長特選
枯蓮は邪馬台国を出るところ　木之下みゆき

加藤峰子事務局長特選
雀等の弾み上手よ木の芽張る　原　瞳子

会場風景

入賞者と代表作品（○内は順位）

①蘖（ひこばえ）に日が降る鳥の声が降る　増成　栗人
②空耳の進軍ラッパ桜東風　木之下みゆき
③人声のふくらんでゐる初桜　五十嵐紀子
④あたたかや切株といふ木目椅子　伊藤　素広
⑤水の春向きを揃へて舫ひ舟　紬　真知
⑥春光や漕ぐたび光る櫂の先　西村　英雄
⑦雀等の弾み上手よ木の芽張る　原　瞳子
⑧橋脚は戦の欠片冴返る　平山　武彦
⑨日輪へ飛び立つ構えへ花辛夷　滝口美智子
⑩ふらここの風に尖りの確とあり　藤井　稜雨
⑪鉛筆を借りてもの書く蝶の昼　飯田　晴
⑫天空へ万の百態木の芽時　樋渡　洋子
⑬切株は木霊のすみか囀れり　大沢美智子
⑭春泥にかすかな起伏蓮田かな　加藤　峰子
⑮満作のちぢれて花のととのはず　大政　達夫

秋尾副会長

参加者一覧（入賞者は除く）

秋尾　敏　　秋元　政子　　東　昇
梓　孝江　　石井紀美子　　上田　玲子
宇田川紀代子　　宇根　幸子　　尾川美保子
大久保文夫　　大島　省子　　岡井マスミ
岡本　秀子　　奥井　あき　　岡澤　田鶴
葛西　茂美　　金井　一夫　　鎌田　光恵
唐鎌　良枝　　北川　昭久　　清瀬　朱磨
工川ひとみ　　久保内八千代　　久礼　隆志
小暮実千代　　坂井　博　　佐久間京子
佐々木和子　　さとりはるお　　島田　喜郎
清水佑実子　　須田眞里子　　高橋　宗史
武田喜代子　　多胡たかし　　津高里永子
中久保武雄　　中島　すず　　中田二三代
中村　世都　　野口　京子　　早坂　哲夫
平岡　育也　　平野みち代　　広渡　敬雄
藤野　武彦　　藤埜まさ志　　前北かおる
牧　澄子　　箕輪カオル　　山岸　明子
山口ひろよ　　山口みはる　　祐　森司
横尾かんな　　横山　郁子　　吉岡　一三
和田　紀夫

千葉公園の桜

千葉県俳壇ニュース

村上喜代子氏第三十九回俳人協会評論賞受賞

当協会理事で俳人協会千葉県支部支部長の村上喜代子氏が、『大野林火論―叙情とヒューマニズム』で第三十九回俳人協会評論賞を受賞した。三月十七日、京王プラザホテルにて開催された俳人協会総会にて贈賞された。

「音信」新会長に木村傘休氏

「音信」三月号に、音信俳句会の運営体制が発表され、新たに木村傘休氏が会長に就任することとなった。一月十三日に、前会長の白鳥紅星子氏は逝去された。

「響焔」新主宰に松村五月氏

「響焔」四月号に、「主宰交代のお知らせ」が掲載され、松村五月副主宰の主宰就任が発表された。米田紀子主宰は名誉主宰に、山崎聰名誉主宰は最高顧問にそれぞれ就任する。

「軸」通巻七〇〇号

秋尾敏主宰の「軸」が通巻七〇〇号を迎え、三月号が記念号として発行された。表紙裏に「『軸』七〇〇号のあゆみ」として創刊号からの表紙が紹介されたほか、特集として「秋尾敏主宰講演録集」が掲載された。

「ろんど」通巻四〇〇号

すずき巴里主宰の「ろんど」が通巻四〇〇号を迎え、四月号が記念号として発行された。主宰による「祝・４００号　明日への眼差し」のほか、同人会員各氏による「エッセイ～４００号に寄せて～」が掲載された。

正岡子規句碑建立記念八千代市民俳句会

令和七年三月二十九日（土）、八千代市市民会館を会場に、正岡子規句碑建立記念八千代市民俳句会を開催した。

記念投句優秀作品

①山の声地の声春が来てをりぬ　仲　育子
①二重飛び出来てポーズや揚雲雀　大野　咲子
①若き日の子規の黒髪うららけし　木嶋　純子
④穴を出てあそび上手なムツゴロウ　熊谷　明純
④子ら去りし部屋の日だまり独楽の紐　野口　和子
⑥下萌やあんパンジャムパンクリームパン　小久保　寛
⑥春の雪むこうの山に掌に　熊谷　明純
⑥長靴の干さるる漁港風光る　綿貫百合子

当日作品

①初ざくら師の住むまちに子規の句碑　木嶋　純子
②芳草に寝転び雲を数へけり　大久保文夫
③誉めているらしき異国語鉢の梅　板倉美智子
③芽柳の風にも水にも逆らはず　岩波　裕子
⑤いには野の空の広さや揚雲雀　仲　育子
⑤懸垂の五回がやつと山笑ふ　川原　文男
⑤卒寿まで生きる覚悟やふきのたう　浦　卓夫

（前北かおる報）

●―― 結社賞 ――●

いには同人賞・いには賞

第十五回いには同人賞　梅津紀子
おぼろ月生後七日の足のうら
第十九回いには賞　石本順恵
印象派絵画の光小鳥来る

（「いには」二月号より）

第三十一回鳳声賞・百鳥賞

鳳声賞「氷結湖」高宮義治
氷結湖音なく朝を迎へけり
鳳声賞「秋の風鈴」中條ひびき
吾子の忌の秋の風鈴ひびきけり
百鳥賞「梅真白」上床直美
住み古りて玄関先の梅真白

（「百鳥」二月号より）

第二十三回獺祭同人大賞

大賞　日出嶋雅美
八畳の障子を通す夕日かな
準賞　仁神米子
色彩りも思惑も入れ毛糸編む

（「獺祭」四月号より）

「響焔」令和六年度最優秀作家賞

火炎賞「花泊夫藍」河村芳子
花泊夫藍うれし涙の色として
白灯賞「愛しきもの」酒井介山
冬に入る愛しきもののつと去りて

（「響焔」四月号より）

令和六年「ろんど賞」「ろんど新人賞」

ろんど賞「鬼やらふ」まつのたく
姿無き鬼有る鬼も鬼やらふ
ろんど新人賞「京と浪花の月行事」能登ゆみ
女正月夢二の影の二寧坂

（「ろんど」四月号より）

★年会費納入のお願い

年会費（三千円）は前納です。協会の円滑な運営のため、まだ納入されていない方はお早めの納入をお願い致します。
年会費送付先　千葉県俳句作家協会
郵便振替口座　〇〇一五〇―六―三五二三四四

千葉県俳句作家協会　運営基金のお願い

千葉県俳句作家協会のさらなる発展のため、運営基金を募集致します。皆様の積極的なご協力をお願い申し上げます。

◇一口　二千円

◇送付先　千葉県俳句作家協会基金口

郵便振替　〇〇一四〇－〇－七九二〇八三

基金にご協力頂いた方のご芳名を会報「真木」に記し領収に替えさせて頂きます。

新入会員一句

目が青むまで秋の水見てゐたり　島﨑　妙子

基金御礼（令和七年一月二十日以降）

野口　京子　村上喜代子　島崎　妙子
高木　一恵　栗原　公子　岡真　紗子
山内　洋光　栗坪　和子　荒木　甫
奥村　利夫　箕輪カオル　飯田　協子
内山　花葉　町山　公孝　志田佐代子
倉持　紀子　峰崎　成規　中島　孝
黒澤　雅代　嶌田二三夫　齋藤　陽子
井原　美鳥　谷本　元子　福井　隆子
本池美佐子　尾川美保子　菊池　光子
小林　俊子　伊藤　隆　中山　和子
小林　愛子　中西　恒弘　五十嵐紀子
岩本　功志　椎名　鳳人

（令和七年四月二五日現在：七十一口、十四万二千円）

受贈誌より

あびこ（三七七号）
冬ざれの道のべ紅き花得たり　染谷　卓

いには（四月号）
あをぞらに別るる蝶や師系とは　村上喜代子

沖（四月号）
本棚の本の窮屈鬼やらひ　能村　研三

音信（三月号）
ベーカー街Ｂ２２１黒マント　木村　傘休

響焔（四月号）
新しい年かろうじて水の星　松村　五月

雲（四月号）
春の水生まれやすくてころがれり　飯田　晴

鴻（三月号）
牡蠣雑炊浦里に灯の入るころ　増成　栗人

好日（四月号）
寒椿風のなき日は手紙焼く　髙橋　健文

鴫（四月号）
ポタージュやかくも静かに年迎ふ　加藤　峰子

軸（四月号）
三月を三月として重機病む　秋尾　敏

獺祭（三月号）
あこがれの制服うれし入学式　本田　攝子

野火（四月号）
ぽつとゐる冬のさ中の天道虫　菅野　孝夫

初蝶（四月号）
日を返すガラスの欠片寒九かな　中山　和子

万象（四月号）
寺町の路地に消えたる春みぞれ　江見　悦子

ペガサス（二十二号）
雪虫が飛んで空耳増えてゆく　羽村美和子

百鳥（四月号）
白鳥に呼ばれ岸辺に人集ふ　大串　章

ろんど（四月号）
美浜てふ藍より拾ふ桜貝　すずき巴里

事務局日誌

◆令和六年度　第五回理事会（出席者29名）

日時　令和７年２月11日（火）

会場　千葉市文化センター　５階　セミナー室

議事　１　令和６年度新春交流会について
２　第10回千葉県俳句大賞贈賞式について
３　令和７年度春季吟行会について
４　令和７年度千葉県俳句大会について
５　令和７年度新緑交流会、通常総会について
６　青葉の森公園芸術文化ホール　特別展について
７　千葉県俳句作家協会合同句集　第11集について
８　会報「真木」２１３号について
９　令和６年度　第２回小委員会の開催結果報告について
10　その他　事務局報告

会員異動

新会員
島﨑　妙子（我孫子市）

謹訃
森　ふく　様
久保田たい子　様
齊藤　智　様
吉良　奏秋　様

謹んでご冥福をお祈り申しあげます。

月刊俳誌

鴫（しぎ）

鴫 俳 句 会
代表　加藤　峰子
創刊　田中午次郎
再刊　伊藤　白潮

誌代１年　18,000円
（見本誌　500円）

〒260-0852
千葉市中央区青葉町 1274-14
加藤方
電話・FAX 043-225-7115
http://shigi-haikukai.com/

心を満たす俳句

鴻 koh

「鴻」俳句会

主宰　増成栗人
師系　角川源義　吉田鴻司

発行所
〒271-0087
松戸市三矢小台二-四-一六 谷口方
電話 〇四七-三六三-四五〇八
FAX 〇四七-三六六-五一一〇

◆誌代／年間 九、〇〇〇円

歩いて俳句

雲

創刊 鳥居三朗
師系 今井杏太郎

主宰 飯田 晴

雲発行所
〒276-0023
八千代市勝田台一-七-一
D-一〇〇五
電話&FAX 〇四七・四八七・七一二七

創刊５０周年

軸

軸 俳 句 会
主宰　秋尾　敏

〒278-0005
野田市宮崎９５-４
電話 04-7122-3921
Fax 050-5552-9110

１１０円切手２枚で見本誌贈呈

月刊俳誌

沖（おき）

俳句ルネッサンス
主　宰　能村　研三

新会員募集中

誌　代　1年／18,000円
半年／9,000円
見本誌　1冊 800円

沖 発 行 所
〒272-0021 市川市八幡6-16-19
TEL 047-334-4975
FAX 047-333-3051
振 替 00170-6-161552

自然と人間の一体化を目指す

月刊

好日

創　刊　阿部笈人
主　宰　髙橋健文

誌代　一年　一二〇〇〇円（送料共）

〒270-0007
千葉県松戸市中金杉二ノ七八
好日俳句会
電話　〇四七-七一三-六四九五
振替　〇〇二五〇-一-一四一二七八

現代俳句同人誌

隔月刊

遊牧

名誉代表　塩野谷　仁
代表　清水　怜

誌代　一年　六、〇〇〇円（送料共）

〒290-0003
市原市辰巳台東五-三-一六　大西方
遊牧俳句会
電話　〇四三六-七四-五三四四
振替　〇〇二八〇-五-一〇〇〇二七

一度きりの今を楽しむ

いには

INIWA

主宰　村上喜代子

新会員歓迎・添削指導します。

誌代１年 12,000円（月刊）
半年　6,000円 見本誌 500円

－いには俳句会－

〒276-0036
千葉県八千代市高津390-211
電話　047-458-1919
Fax　047-458-1895
振替　00280-9-131469
HP検索：いには俳句会

俳誌

あびこ

主宰　染谷　卓

誌代（隔月刊）　一年　四〇〇〇円

〒270-1138
我孫子市下ヶ戸二八五
TEL〇四-七一-八二一-四四四一
郵振替 〇〇一〇〇-四-一八九〇七四

あびこ俳句同好会